

産婦人科研修プログラム

指 導 医 中川 博之・倉橋 崇

<u>研 修 期 間</u>	基 本 コ ー ス	必修科目	1ヶ月
		選択科目	1ヶ月から9ヶ月
	小児科・産婦人科コース		
	産 婦 人 科 主 科	必修科目	6ヶ月
		選択科目	1ヶ月か6ヶ月
	小 児 科 主 科	必修科目	2ヶ月
		選択科目	1ヶ月から6ヶ月

【一般目標】

プライマリケアに必要な、女性特有の疾患、ホルモン変化、妊娠分娩に関する研修を行う。

これにより、女性患者を全人的に理解し、女性の QOL 向上を目指したヘルスケアを行えることを目標とする。

1、女性特有の疾患による救急医療

産婦人科急性腹症の診断（子宮外妊娠、卵巣囊腫茎捻転、卵巣出血、）

2、妊娠の診断、妊婦の管理、投薬、正常分娩の経過

妊娠分娩と産褥期の管理の基礎知識と育児に必要な母性とその育成

妊産褥婦に対する投薬や検査に対する制限などの特殊性

3、思春期、成熟期、更年期の特徴

これらのホルモン環境の変化とその失調に起因する疾患

4、婦人科腫瘍の診断と治療

これらの研修を通じて女性の特有な疾患を理解し、その特性を会得することはすべての医師にとって必要不可欠なものである。

【行動目標】

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 基本的診察

(ア) 問診と病歴

① 主訴

- ② 現病歴
- ③ 月経歴
- ④ 結婚、妊娠、分娩歴
- ⑤ 家族歴
- ⑥ 既往歴

(イ) 診察法

- ① 視診（一般的視診、膣鏡診）
- ② 触診（双合診、内診、妊婦の Leopold 法含む）
- ③ 直腸診
- ④ 新生児の診察（Apgar Score、Silverman score 含む）

(2) 臨床検査

経験することが望ましい検査 (A) とできるかぎり経験することが望ましい検査 (B)

(ア) 婦人科内分泌検査

- ① 基礎体温表の診断 A
- ② 頸管粘液検査 A
- ③ ホルモン測定 A
- ④ ホルモン負荷検査 B

(イ) 妊娠の診断

- ① 免疫学的妊娠反応 A
- ② 超音波検査 A

(ウ) 感染症の診断

- ① 膣トリコモナス症、膣カンジタ症の検査 A

(エ) 細胞診組織診

- ① 子宮膣部細胞診 A
- ② 子宮内膜細胞診 A
- ③ 病理組織生検 A

(オ) 超音波検査

- ① ドプラー法による胎児心拍確認 A
- ② 経膣、経腹超音波検査 A

(カ) 内視鏡など

- ① コルポスコピー B
- ② 子宮鏡 B
- ③ 腹腔鏡 B

(キ) 放射線検査

- ① 骨盤計測 B
- ② 子宮卵管造影法 B
- ③ 骨盤CT検査 A
- ④ 骨盤MRI検査 A

B 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 産科

- (ア) 妊娠の生理について理解する
- (イ) 正常分娩の経過、産褥、新生児 5例以上を見学、診療することが望ましい
 - ① 正常分娩の介助、見学
 - ② 新生児の評価
- (ウ) 妊娠産褥の投薬
- (エ) 妊娠中の検査 5例以上を経験、見学することが望ましい
 - ① 妊娠の診断
 - ② 超音波
 - ③ 分娩監視装置
- (オ) 異常妊娠分娩
 - ① 流産の診断と処置
 - ② 早産の管理
 - ③ 帝王切開術の助手
 - ④ 産科出血に対する救急処置、止血法

(2) 婦人科

- (ア) 婦人科患者の問診
- (イ) 骨盤内解剖の理解
- (ウ) 視床下部、下垂体、卵巣系の内分泌調節の理解
- (エ) 月経異常
 - ① 無月経、月経不順
 - ② 過多月経、過長月経
子宮筋腫、機能性子宮出血など
 - ③ 月経困難症
子宮筋腫、子宮内膜症など
- (オ) 不正性器出血
 - ① 性成熟期、更年期
機能性子宮出血、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌など
 - ② 閉経後

老人性陰炎、子宮体癌、子宮頸癌など

- (カ) 思春期
 - ① 内分泌異常、性分化異常
- (キ) 更年期
 - ① 心身症状に対するケア
- (ク) 排尿異常、帯下
 - ① 性器脱の有無
 - ② 帯下の観察と診断
- (ケ) 不妊症
 - ① 基礎体温
 - ② 内分泌的評価
 - ③ 不妊症検査（子宮卵管造影、精液検査など）
- (コ) 性感染症
 - ① 診断と治療
- (サ) 婦人科がん
 - ① 診断（CT、MRI など含む）
 - ② 治療（化学療法、放射線、手術）
 - ③ 末期がん患者のケア
- (3) 急性腹症
 - (ア) 子宮外妊娠、流産
 - (イ) 卵巣嚢腫茎捻転
 - (ウ) 卵巣出血
 - (エ) 骨盤内感染症
- (4) その他
 - (ア) 産婦人科診療に関する倫理的問題の理解
 - (イ) 母体保護法関連法規の理解
 - (ウ) 家族計画の理解

C 優先すべき順位

プライマリケアに必要な、

- (1) 妊娠の診断と正常妊娠の管理
- (2) 女性に頻度の高い症状である
 - (ア) 腹痛
 - (イ) 腰痛といった症状を呈する以下の疾患の診断
 - ① 月経困難症、子宮附属器炎、骨盤腹膜炎など婦人科的疾患

② 切迫流早産、常位胎盤早期剥離、陣痛など産科的疾患

(3) 急性腹症

- (ア) 子宮外妊娠
- (イ) 卵巣腫瘍茎捻転
- (ウ) 卵巣出血 などの診断と管理を優先的に研修する。

【研修方法】

産科

1、妊娠の診断と正常妊婦の外来管理、分娩管理

⇒5例以上を経験し、正常分娩経過についてはパルトグラム作成や、分娩監視装置による検査の評価も含めたレポートを1例以上作成する。

2、帝王切開、流早産の管理に受け持ち医として参加する。

1、産科出血に対する救急処置 症例があれば参加する。

婦人科

1、婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画

⇒子宮および卵巣の良性疾患をそれぞれ1例以上経験し、うち1例はレポートを提出する。

2、婦人科性器感染症の検査、診断、治療に外来および病棟で参加する。

3、無月経、更年期など内分泌疾患の診断、治療を外来で参加する。

4、急性腹症の症例があれば受け持ち医として、診断、治療計画を立案し、レポートして提出する。

5、婦人科がんの診断、治療についての理解を深める。

6、緩和ケアを必要とする症例の治療に参加し、臨終の立会いを機会があれば経験する。

妊娠の生理、骨盤内解剖、内分泌系の基礎などはカンファレンス、抄読会を通じて理解を深める。

【評価】

評価はEPOCを使用し、研修医の自己評価及び指導医の評価を行う。